

佳作

コミュニケーションは大切だ

埼玉県立戸田翔陽高等学校 1年

匿名

私は小学三年生の時、ほかの子よりも勉強がおぼえるのが遅く、先生や親に心配されて四年生になり特別支援学級がある学校に転校しました。特別支援学級には色々な人がいました。私と同じ勉強できない子や発達障害、聴覚過敏の子がいました。支援級は5クラスあり私は2組になりました。支援級では何をやるんだろって初めの時思いました。眼球運動や指先トレーニングなどの授業がありました。その時友達と手伝いながらやったのをよくおぼえています。勉強ではクラスの皆と協力して勉強しました。先生とマンツーマンで勉強し、にがてな勉強も徐々にできるようになりました。たまに支援級の全員で集まる機会があり、さわいでいる人やあばれている子が多かったです。私は正直かなりうるさくてイライラした。私は注意しようとしたができなかった。その後中学生になり障害者と関わるのが少なくなった。私は初め、障がい者とは誰かの助けをかりなければならないと、勝手に自分や周囲の人と比べていたが、その考えは違った。確かに、誰かの手をかりなければならないのは間違っていないかもしれない。しかし、それは私達も同じことである。と、同時に、世間では「障がい者」と分類するが、私は個性の一つだと考える。私達それぞれ違った趣味やら得意不得意といった個性をもつように彼らは人から言われたことを覚えるのが苦手で、自分が好きなものは覚えるのは得意な人もいます。私にとってその人しかもってない得意なことが魅力であり、他人を尊重することを大切にしようとする彼らのおかげである。自分たちは障害者と支えていきているのだとわかった。中学生になり、普通のクラスでも勉強することができた。だが最初の時は人と喋ることはなく1人でいた。理由はコミュニケーションが下手だったからだ。だが半年後部活で私の所に話に聞てくれた。私はそこからその友達と喋ることが多くなった。だがそれでもやはり学校生活は不安なものだった。だがもっと他の子と喋るために色々な人に声をかけた。そしたらだんだんと友達が増えた。そして二年生になり、友達がだんだんと増えてコミュニケーションがとれるようになって、とてもうれしかった。月日がたち私は高校生になった。私は勉強ができなかったので定時制に通うようになった。もう入学して一カ月がすぎたころまで喋る人がいなかったがだんだん友達が増えてとてもたのしいです。自分はもともとコミュニケーションが下手だったけど今はこくふくして皆なとすごすじかんがたのしいです。なのでコミュニケーションは大事だとわかりました。これからさきは、バイトをしたり社会人になったりコミュニケーションをすることが多くなると思うので積極的にコミュニケーションをとることを意識したいです。すべての物に多様な角度があるように、人それぞれ違った考えがあるように、障がいにも多彩な可能性があるとは私は考える。ひとつの角度から見れば確かに障がいは人々を煩わせる「障害」に過ぎないのかもしれない。しかしこの世界に光と影があるように、そういった苦難があるからこそその先に待つ喜びがひときわ大きく特別に輝くのだと私はいつも感じる。そしてそれは障がいに限った話ではない。すべての人間に良いところとそうではないところがある。日常生活のありふれた時間の中で人と出会い、話し、気づき、学ぶことで、少しずつ変化が生まれる当たり前があればもっと、誰もが暮らしやすい社会になっていくと思う。私はそうねがっている。コミュニケーションができなくても勉強ができなくても人とか

かわることが大切なのだと思う。そんな心のふれあいや気づきのその先にきっと、誰もが自分らしく個性を発揮できる社会があるはずだ。私の夢は音楽関係で作曲やバンドなどの仕事をしたい。そのためにはコミュニケーションが大事なので頑張りたいです。最初は高校三年間部活やバイトなどで自立心をあげていきたいです。